



# 通信

HP 学校だより  
R6. 6. 12  
NO. 1 2  
文責 伊藤美佳



## 「しとしと」の次は

11日(火)の朝会では、「プール開き」のお話と、絵を描く会などの表彰を行いました。今回は、朝会でお話したことにプラスしてお伝えします。

6月は「水無月(みなづき)」と言います。梅雨の季節で雨が多いのに「水の無い月」とつけられたのは不思議です。(なぜかを自分で調べる豊坂っ子がいてくれるとうれしいです)まだ梅雨入していませんが、梅雨の雨は「しとしと」降るイメージを持っていました。3年生の辞書引きと合わせて、「しとしと」の意味(静かに雨が降る様子)を聞いてみると、何となくイメージはつかめている感じを受けました。その次に、辞書を引くとき、「しとしと」の次にある言葉は何か聞いてみました。何人か手を挙げてくれましたが、なかなか当たりませんでした。6月を表す言葉だと伝えると「じめじめ」という言葉が出てきました。残念ながら、「しとしと」の次ではありません。最終的に「じとじと」という言葉が出てきました。この日は、まさに「じとじと」(軽く粘りつくように不快な湿り気をおびているようす)を体感するには適していました。今後、暑さが増し、「じとじと」する不快な日が増えてくるはずです。熱中症に留意しながら、元気にあいさつしながら登下校できる豊坂っ子でいてほしいです。

ここ何回か、言葉を増やすことについて書いています。今、多くの大人が気づき、手を打つことが本当に大切だと思っています。最近読んだ本が、そのことを実感させてくれました。

みんな結局は成果主義で、すぐに形として表れる結果ばかりを追い求めつづけている。だから、もっともっとという具合に新しいことをやろうとする。でも、国語力を育てることって成果主義とは真逆で、目に見えないもの。一つの詩を丹念に読み込んで感動の涙を流しても、テストの点数に結びつかないし、資格を取得できるわけでもない。でも、そうやって内面で育ててきたものがあるからこそ、何十年か先に誰も想像しなかったような素晴らしい人間性を持てるようになる。人にとって本当に大切なものって不可視(目に見えないもの)だと思う。その子のやさしさを育てる、その子の勇気を育てる、その子の誠意を育てる、どれも明確な方法論があって数日後に点数化されて見えるものではない。

それでも、その子の未来のために毎日水をやり、丁寧に語りかけ、手を汚しながら土を取り換えて育てていく。家庭でも、学校でも、地域でもそれをやっていく。これが本来の教育だと思う。

(『誰が国語力を殺すのか』石井光太著より抜粋)

最後の、「家庭でも、学校でも、地域でも」という言葉がとても重いです。子どもたちに素敵な言葉のシャワーをたくさん浴びさせて、しっかりと根をはれるようにしていかないといけないと感じます。しっかりとした根をもてば、美しい花や大きな実をつけることができるでしょう。周囲の大人が協力して、子どもたちの未来を育てていきたいです。※ちなみに、「じとじと」の次は「じとっと」(水などがゆっくりとじんできるといふようす)でした。